

# チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

## 第23回

### 西原茂樹氏 (MIJBCセンター理事長)

#### ——日中の適材適所つなぐビジネス戦略

一般社団法人 洸楓座 代表理事 佐藤建吉

#### 「MIJBC」の出会い

コロナの騒ぎの発生以前である2019年12月末に、筆者は中国山東省威海市での第1回日中科学技術革新協力大会に参加した。成田空港から青島空港に飛び、威海市までは車で3時間であった。同行したのは、10名のグループ。着後、ホテルで歓迎会があった。すると、別便で来た50名の日本人がいて、現地、威海市からの中国人参加者と合わせて300人は超える大きな賑やかに晩餐会となった。

その歓迎会で、今回紹介する西原茂樹氏が挨拶した。筆者は、結構お酒に強いので、白酒で乾杯返杯を繰り返して、すっかり中国人と親しくなり、その後、その後の会議開催の会議開催の中は苗氏の公式や私的な会合に毎回参加させて頂いた。

2日目の革新会議において「水の浄化技術」について講演した。それは、当時、千

講演中の西原茂樹氏(オンライン講演画面から作成)



された。満面にこやかな西原氏の挨拶には感銘を受けた。また、日中科学技術革新の趣旨からは、光触媒で著名な東京理科大学の藤嶋昭栄教授が挨拶された。中国側からは、山東省の科学技術の担当局長や威海市副市長が挨拶された。省や市を挙げての歓迎会の盛大さは、中国流の演出であり、始終賑やかである。私が割り振られたテーブルは、他に2名の日本人と、別便で来た50名の日本人がいて、現地、威海市からの中国人参加者と合わせて300人は超える大きな賑やかに晩餐会となった。

その歓迎会で、今回紹介する西原茂樹氏が挨拶した。筆者は、結構お酒に強いので、白酒で乾杯返杯を繰り返して、すっかり中国人と親しくなり、その後、その後の会議開催の会議開催の中は苗氏の公式や私的な会合に毎回参加させて頂いた。

2日目の革新会議において「水の浄化技術」について講演した。それは、当時、千

#### 壮大で革新的中国に圧倒

前述したように、この第1回日中科学技術革新協力大会における歓迎会や会議・講演会、そしてビジネスマッチングの演出は中国流であった。技術協力の提携調印式までが公式行事として組み込まれており、筆者も次に述べる技術適用に署名した。中国政府が展開する科学技術、とくに情報技術&コンピュータ技術の進展と実践に根ざした躍動的で壮大さにはすっかり高揚させられた。

筆者は、この科学技術革新会議において「水の浄化技術」について講演した。それは、当時、千



山東省威海市における講演の様子

ようである。1954年3月の静岡県生まれで現在67歳。金沢大学工学部土木工学科を卒業し上下水や廃棄物などのエンジニアをされた。35歳で静岡県相良町議会議員。37歳から県議会議員を4期経験された。平成の合併で誕生した牧之原市の初代市長になり、3期12年担当された。4年前の10月に退任されたが、この回、8回の選挙では8戦8勝であったという。

ゆえに、西原氏は役務や職務における熱心さや信頼性が、そして発信力が優れていることが、この結果に裏打ちされているといえらる。

空港設置の話は、1986年に持ち上がり、以来、西原氏は、熱心にこの課題解決を行って来た。まず、誘致を牧之原市にするのと、反対者もいるのでその受容性と合意をつくること。結果、決定され建設が始まったのは1995年(平成7年)、完成は

#### 政治家としての経歴

初、「日本の高水準のパソコン」を100台寄贈するというのが静岡県側からの案であったが、浙江省側が「いつまでも残るものがいい」ということで、友好会館としてのホテルを提供したのだという。そのホテルは「杭州花家山荘」と名付けられ、現在も趣旨に叶い使われているという。

静岡県と浙江省とのつながりは、彼の地が「温州ミカンとお茶の故郷」である由縁によるという。この単純で明快な理由こそが、強い係わりとなっており、現在まで40年も続いて発展している。静岡県の一つの悩みは、訪中や来静(らいせい)で利便性であった。静岡県は東海道新幹線があり、東京にも名古屋にも関西方面にも便利であるが、海外との交通はひとつ飛びとかならない。そこで、つくられたのが富士山静岡空港である。

すでに静岡県では、特に製造業への投資にも注力し、中国などの海外向けの中小企業支援を行っていた。国では地方創生の掛け声を挙げてはいるが、上手に行かない。その成功例が、唯一、牧之原市であるという評価を中国と、長年の生産技術とノウハウを持つ日本企業には、高い研究開発力と先進技術力があり、また付加価値の高い製品や信頼性を生み出す品質管理技術がある。また、筆者は国際善隣協会に会員でもあり、講演委員会活動もしている。先月12月6日には西原氏に、善隣協会においてオンライン講演会の講師をお願いした。テーマは、「MIJBCによる日本国内で行い、技術流出を防ぐためにも日本企業の研究開発拠点と日中ビジネス交流」であった。これまでの西原氏の本に残す戦略である。また、真に日中両国の相互生産開発拠点は日本と中国と、資本移転は中国と、生産開発拠点は日本と中国と、棲み分けを維持している。大々的、若い仲間とともに進めたいと思う。



中国とのホストタウン提携式(牧之原市)

2009年(平成21年)受けて、これがMIJBCの展開にも弾みがついたという。牧之原市の西原市政としては、「東京ではなく、地方!」「大企業ではなく、中小企業!」を掲げ、地方や中小企業が元気を取り戻すことを旗印とした。そのパートナーとして、豊かな資金力と購買力を占めている中国と組もうというものが、西原氏のMIJBCのアイデアであった。MIJBCは、一言で言うと、「中国と日本の共同のつくり・共同研究開発」である。豊かな資金と14億人という販路をもった、さらに付け加えれば、「やる気のある中国と、長年の生産技術とノウハウを持つ日本企業」というのが、MIJBCのコンセプトである。MIJBCは、一言で言うと、「中国と日本の共同のつくり・共同研究開発」である。豊かな資金と14億人という販路をもった、さらに付け加えれば、「やる気のある中国と、長年の生産技術とノウハウを持つ日本企業」というのが、MIJBCのコンセプトである。

現在、中国は豊かになりつつある。日本企業は、高い研究開発力と先進技術力があり、また付加価値の高い製品や信頼性を生み出す品質管理技術がある。また、筆者は国際善隣協会に会員でもあり、講演委員会活動もしている。先月12月6日には西原氏に、善隣協会においてオンライン講演会の講師をお願いした。テーマは、「MIJBCによる日本国内で行い、技術流出を防ぐためにも日本企業の研究開発拠点と日中ビジネス交流」であった。これまでの西原氏の本に残す戦略である。また、真に日中両国の相互生産開発拠点は日本と中国と、資本移転は中国と、生産開発拠点は日本と中国と、棲み分けを維持している。大々的、若い仲間とともに進めたいと思う。



オンラインでの第2回日中科学技術革新協力大会(東京)

#### むすび

西原氏との出会いは、筆者のこれまでの中国や中国人との関わりにおいて、筆者の琴線にも響いた。筆者は、中国から多くの留学生を迎え、修士課程を終えて就職し、中国側の課題を解決するために博士課程で研究し、日本の技術を活かす「共同のつくり」戦略を取ったもの、多様である。若い彼らが志を向けることは、日中間の成立である。

日本企業には、高い研究開発力と先進技術力があり、また付加価値の高い製品や信頼性を生み出す品質管理技術がある。また、筆者は国際善隣協会に会員でもあり、講演委員会活動もしている。先月12月6日には西原氏に、善隣協会においてオンライン講演会の講師をお願いした。テーマは、「MIJBCによる日本国内で行い、技術流出を防ぐためにも日本企業の研究開発拠点と日中ビジネス交流」であった。これまでの西原氏の本に残す戦略である。また、真に日中両国の相互生産開発拠点は日本と中国と、資本移転は中国と、生産開発拠点は日本と中国と、棲み分けを維持している。大々的、若い仲間とともに進めたいと思う。